世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

認知行動療法研究誌5号：表紙,目次,投稿規定,編集後記,奥付

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 武蔵野大学認知行動療法研究所 公開日: 2024-11-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000437

武蔵野大学
認知行動療法研究誌

【特集：海外で認知行動療法を学ぶ】
■特集にあたって　中島聡美

■米国における心理士の実際　堀越勝

■日本とオーストラリアの子育てと文化比較　城月健太郎

【研究報告】
■認知症者の家族介護者にみられる「あいまいな喪失」に関する質的研究
～語りにみられる個人の心理的症候に注目して～
林恵子　他

【症例報告】
■がんのために家族を亡くし遷延性悲嘆症を呈した
遺族に対する日本版遷延性悲嘆症治療（J-PGT）の実践　松田陽子　他

学会便り／書評／活動報告／投稿規定／編集後記

2024年　第5号
武蔵野大学認知行動療法研究所

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University

武蔵野大学認知行動療法研究誌　第５号

目　次

【特集：海外で認知行動療法を学ぶ】

特集にあたって …… 中島聡美… 1

米国における心理士の実際 …… 堀越勝… 2

日本とオーストラリアの子育てと文化比較 …… 城月健太郎… 13

【研究報告】

認知症者の家族介護者にみられる「あいまいな喪失」に関する質的研究
～語りにみられる個人の心理的症候に注目して～
…… 林恵子　他… 21

【症例報告】

がんのために家族を亡くし遷延性悲嘆症を呈した
遺族に対する日本版遷延性悲嘆症治療（J-PGT）の実践 …… 松田陽子　他… 34

学会便り：第 22 回日本トラウマティック・ストレス学会 …… 中山千秋… 45

書評：『続・犯罪心理学を学ぶための精神鑑定事例集』…… 菊池安希子… 47

活動報告 …… 48

投稿規定 …… 50

編集後記 …… 53

2023年度「武蔵野大学認知行動療法研究所」投稿規定

本誌は他誌に発表されていない原稿のみを掲載します。投稿者は、武蔵野大学認知行動療法研究所研究員、武蔵野大学認知行動療法研究所客員研究員、名誉教授、人間学専攻後期博士課程院生、本学非常勤講師に限ります。これらの者が筆頭著者または共著者に含まれている場合、投稿を受け付けます。他誌に投稿中、印刷中または掲載済みの論文と主要部分が重複した論文は受け付けません。この点に触れる恐れのある場合は、重複すると思われる論文のコピー1部を投稿論文とともにお送り下さい。ただし、研究報告書、学会発表ならびに抄録での発表は除外対象としません。

Ⅰ　投稿論文・原稿の種類

	①原著	②資料	③総説	④症例報告	⑤実践報告
字数	10,000字程度			8,000 字程度	
邦文抄録・キーワード	400 字以内・5個以内			200 字以内・5個以内	
英文抄録・キーワード	250 ワード以内・5個以内				
倫理的配慮の記載	要			要	

Ⅱ　提出に関する規定

1. ワードプロセッサー使用の場合、1頁を文字数1,200（横40 × 縦30で印字されたA4サイズの用紙）にして下さい。
2. 原稿には表題、氏名，所属とその住所を記載して下さい。Ⅰ①②③には、英文で表題、氏名、所属とその住所も記載して下さい。これらに加え、抄録、倫理的配慮は規定枚数に含みません。
3. 図・表・写真は各々につき400字として規定枚数に含みます。写真はカラーではなく白黒にし、鮮明なネガまたは鮮明にプリントアウトされたものをお送り下さい。または電子ファイルにて添付して下さい。なお、原稿、写真、ネガについては返却しませんのでご了承下さい。
4. 投稿の際は（本規定末尾参照）より「投稿者カード」をダウンロードし、ご記入の上、同封ください。
5. 「原著」は、武蔵野大学認知行動療法研究所（以下研究所）の主旨にふさわしい主題について著者自身の研究によって得られた洞察に基づいて独自の考察をした論文とします。原則として研究の意義、方法、結果、考察を含みます。
6. 「総説」は、研究所の主旨にふさわしい主題について関連する学術論文、書籍等を網羅的に検討し、新しい知見を提示した論文とします。論文の収集並びに検討方法が恣意的ではなく体系的であること、その方法論が示されていること、先行する総説には見られない知見が含まれることが必要となります。

7.「資料」は、研究所の主旨にふさわしい独自性の高い資料等とします。
8.「症例報告」は、認知行動療法および関連領域に関わる臨床例について報告して下さい。
9.「実践報告」は、認知行動療法および関連領域に関わる実践について報告して下さい。

Ⅲ　倫理・利益相反

1. 研究論文については、方法論の中に「倫理的手続き」という項目を設けて下さい。その項目の中に著者所属機関の倫理委員会の承認の有無、対象者の同意を得た方法などを明記して下さい。資料の二次的使用については著作権者の許諾、その他必要と思われる事項を記載して下さい。助成・寄付を受けての研究等については、その旨を記載して下さい。また症例記述については匿名性について最大限にご配慮下さい。症例報告については、対象者の同意書コピーの提出を求めることがあります。疫学研究、医学的臨床研究、ゲノム研究については、該当する倫理指針を参照して下さい。
2.「原著」「資料」「総説」「症例報告」「実践報告」「特集」の著者は、武蔵野大学で定める利益相反（COI）自己申告書を記入し、原稿とともに提出して下さい。

Ⅳ　共著者

共著者の投稿同意については、「共著者承諾書」に、必要事項を記載の上、共著者の自筆署名を付けて下さい。

Ⅴ　用語

外国の人名・地名は原語表記とし。薬品・試薬名は一般名の英語表記を用いて下さい。その他の学術用語、専門用語は、日本語表記を用い、必要な場合は初出箇所に原語及び略語を（ ）で付記して下さい。再出箇所では略語表記も可能です。

Ⅵ　文献

1. 文献引用は必要最小限のもののみをあげて下さい。なお、文献引用欄は規定枚数に含みます。
2. 各文献は著者名のアルファベット順に番号を付し（同一著者の場合は，発表順）、本文中にその番号で引用し、本文中の引用は番号を上付きにして下さい。 例）小西 3) によると
3. 欧文雑誌名の略称は Index Medicus に従い、（Am.J.Psychiatry のように省略のピリオドをつける）、邦文雑誌は公式の略称を用いて下さい。
4. 著者氏名は３名以下の場合は全員、４名以上の場合は３人目まで書き、後は et al.（または、ほか）として下さい。
5. 文献の書き方は、以下を参照して下さい。

書式	記載例
著者氏名：論文題名。 雑誌名、巻；起頁 － 終頁、 西暦年号．	中島聡美，伊藤正哉，村上典子ほか：災害による死別の遺族の悲嘆に対する心理的介入．トラウマティック・ストレス，10；71-76，2012.
	Shirotsuki, K., Uehara, S., Adachi, S., et al.: Internet-based cognitive behavior therapy for stress and anxiety among young Japanese adults: a preliminary study. Psych, 1; 353-363, 2019.
単行本 著者（編者，監修者）名： 書名．発行所名，発行地， 起頁 － 終頁，西暦年号． （翻訳も同じ書式）	小西聖子　編著：犯罪被害者のメンタルヘルス．誠信書房，東京，2008.
	American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: DSM-5 -5th ed.. American Psychiatric Association, Arlington, 2013.（染谷俊幸，神庭重信，尾崎紀夫ほか訳：DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル．医学書院，東京，2014.）
単行本の中の論文 著者氏名：論文題名． 著者（編者，監修者）名： 書名．発行所名，発行地， 起頁 － 終頁，西暦年号．	中島聡美，白井明美，小西聖子：災害による喪失と死別への心理的ケア・治療．加藤寛ほか編：災害時のメンタルヘルス．医学書院，東京，pp 113-120，2016.
	Cahil, S.P., Rothbaum, B.O., Resick, P.A., et al.; Cognitive-behavioral therapy for adults. In Foa, E.B., Keane, T.M., Friedman, M.J. et al., eds.: Effective treatments for PTSD: practice guidelines from the International Society for Traumatic Stress Studies. Guilford Press, New York, 139-222, 2009.

Ⅶ　その他

1. 原稿の採否は編集委員会で査読の上決定します。査読は投稿者の氏名および所属を伏せて行います。また、編集方針により加筆削除等を依頼することがあります。
2. 著者校正は原則として一度のみ行います。掲載された論文には、掲載誌１部と、別刷 10 部を進呈します。
3. 原稿１部ならびに原稿を保存した電子ファイルを武蔵野大学認知行動療法研究にメールでお送り下さい。なお必ずお手元にコピーを保存して下さい。（メールアドレス：cbtinst@musasino-u.ac.jp）
4. 投稿規定は改訂されることがあります。最新の投稿規定もしくは改訂の情報の有無を、必ず研究所ホームページでご確認下さい。
5. 研究成果が「武蔵野大学　認知行動療法研究所紀要」に掲載された場合、同研究成果は武蔵野大学学術機関リポジトリへも登録され、インターネット上に公開されます。そのため、投稿にあたっては、武蔵野大学学術機関リポジトリ規定に基づき、著作権処理を完了しておいてください。

編集後記

編集委員
泉明宏、菊池安希子、小西聖子、今野理恵子、佐々木洋平、城月健太郎、辻惠介、
出野美那子、中島聡美、成澤知美、福沢愛、矢澤美香子（編集事務：猪俣珠恵）
50 音順

2023 年度は、認知行動療法研究所の企画ではないが、日本トラウマティック・ストレス学会第22 回大会が武蔵野大学有明キャンパスで開催された記念すべき年である。新型コロナ感染がなくなったわけではないが、それによる行動制限はほとんどなくなり、日本トラウマティック・ストレス学会だけでなく、国内の多くの学会が対面での開催を行うようになり、自粛されていた海外の学会にも参加できるようになってきた。今回の特集は、それもあって海外での認知行動療法の学びをとりあげた。新型コロナによって遠隔会議などわざわざ現地に行かなくても研究者同士の交流は可能になったが、その場でしか学べないこともあるだろう。むしろ、その場でしか学べないことにより焦点化できるようになったともいえる。よい意味でのグローバル化が心理臨床をさらに発展させてくれることを期待したい。（SN）

行動規制の緩和もあり、4 年ぶりに国際学会に参加してみると、認知行動療法は、モバイル端末を使用した遠隔化が進んでいました。特集記事では、主に米国とオーストラリアの研究について取り上げることができ、今後も広く認知行動療法の動向をお伝えできたらと考えております。（RK）

今号は遷延性悲嘆症に対する認知行動療法の実際、心理臨床家の働き方など様々な領域を通して認知行動療法を考えるきっかけになりましたら幸いです。発刊に際しご協力、ご指導いただきました皆様に心より感謝申し上げます。（TI）

武蔵野大学認知行動療法研究誌　第５号

2024 年 3 月　印刷・発行

発　行　武蔵野大学認知行動療法研究所
住　所　東京都江東区有明 3-3-3
印　刷　株式会社ワコー

Journal of Musashino University of Cognitive Behavioral Therapy and Research

Vol. 5 Mar. 2024

CONTENTS

【Special feature：Studying Cognitive Behavioral Therapy Abroad】

■ The purpose of this special feature — Satomi Nakajima

■ Clinical practice of psychologists in the United States of America — Masaru Horikoshi

■ Child rearing and cultural comparison between Japan and Australia — Kentaro Shirotsuki

【Research report】

■ A qualitative study of "Ambiguous Loss" situations among family caregivers of persons with dementia
～ Focusing on the psychological symptoms of individuals in narratives ～
Keiko Hayashi et, al.

【Case report】

■ Implementation of Japanese version of prolonged grief treatment (J-PGT) for bereaved family of cancer patient with prolonged grief disorder
Yoko Matsuda et, al.

Conference report/ Book review/ Research progress report/ Submission guideline/ Editorial note

Published Annually by
Cognitive Behavioral Therapy and Research Institute
Musashino University